

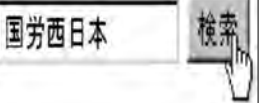


国労西日本

国労西日本本部
NO. 264

発行責任者 森田 文一
編集責任者 片岡 有宏

変えよう
安全を守る
職場風土に



西日本組織拡大座談会開催

安全に働ける職場づくりへ、「おかしい」とは、「おかしい」と言いつつ

国労西日本本部は、6月30日に「組織拡大座談会」を開催した。「国労をもっと魅力的な組合にするために必要なことは、何か？」について、JR採用者を中心に参加者20名で行い、労働条件・安全に働ける職場づくり、そして、組織拡大に向け奮闘していくことを誓い合った。



組織拡大座談会は、倉下組織部長の司会で始まり、西日本本部森田執行委員長のあいさつでは、「昨年の大会以降、6月9日までの集約では組織拡大行動の行

動者数は586人で昨年を上回っている」。本部宮崎組織部長は、「組織拡大の現状は、全国大会以降31名。7月になって東日本で2名の拡大予定。四国で32歳の仲間、北海道でも20才の青年が加入し、全国各地で拡大が進んでいる」と呼びかけた。

座談会では、大北青年部長の進行で、自己紹介と加入前に国労をどう見たのか。国労をもっと魅力的な組合にするために必要なことは、何か。今後の組織拡大運動について等を参加者全員で語り合った。

参加者の声として、
①入社時に、アドバイザーから「国労のピラを取るな、無視せよ」と言われた。イメージが変わったのは、職場において、国労組合員が転勤してきて、仕事ができる、意見がはっきりしている。
②国労自体を知らなかった。前労組は気に入らない。国労は意見を堂々とやっている。今後も言いたいことを言っていきたい。
③前職場では、少数組合に入って、みんなにやられるのはごめんだという気持ちがあった。しかし、現職場は、組合に関係なくやっている。国労は、「おかしい事はおかしい。」と言っている。

④入社時は、国労を知らなかった。国労の掲示板で知った。掲示板には、会社のおかしい事を書いてきた。ずっと読んでいた。そして、先輩から国労加入を誘われ、差別があるかもしれないと思い運動士になって加入した。
⑤組合すら知らない。アドバイザーの言うことは正しいと思っていた。駅、乗務員になってイメージがよくなって国労の先輩の仕事や労働運動を聞いていたうちに加入した。
⑥入社して、半年後に国労を知った。国労が言っていることは正しい。加入用紙を書いた後に前組合の役員がきて話をした。差別と感じたのは進級試験の紙をくれなかったことなどである。

最後に今後も組織拡大に向けお互い奮闘していくことを確認し、大いに盛り上がった座談会となった。

西日本豪雨で犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。特に熱中症に注意し、一日も早い復旧・復興と日常生活を取り戻されますように私たちも精一杯の取り組みを行います。

西日本本部執行委員会

国労西日本本部管内における「西日本豪雨」に対する支援体制等について

国労西日本本部は第13回執行委員会を開催し「西日本豪雨対策本部」を立ち上げ、被災した地域への物心両面の行動を取り組むことを決定しました。今後、交通事情を見極めながら、当該地方本部（岡山・広島）との協議を経て具体的な取り組み方等について下記の通り取り組むので、各地方においては周知徹底をお願いいたします。

- 1 今回の西日本豪雨による被害の甚大さに鑑み、組合員、家族の皆さんの安否確認はもとより、被害状況を把握し、できる限りの対応を実施することとします。
- 2 岡山・広島地方本部への支援体制については西日本本部が窓口になり、物資調達及び搬送などについて、当該地方本部と調整し搬送先等を決定します。
- 3 JR西日本会社、貨物会社、関連会社に対し、西日本豪雨により通勤経路喪失の社員の出勤を含む勤務の取扱いについて、就業規則等で縛るのではなく、社員・家族の安全を第一義としての対応・判断をすることを求めています。また、具体的な代替輸送の態勢を含め、会社に申し入れを行います。



山陽本線・瀬野駅

「西日本豪雨災害」に対する緊急の取り組みについて

去る7月6日から9日にかけて、数十年に一度の異常な大雨が西日本を襲い、各地で河川の氾濫や土砂崩れなどにより被害が拡大するなど豪雨被害が未曾有の広がりを見せている。大雨特別警報が出された地域は計11府県の広域に及び、岡山では住宅地が浸水し、広島では崩落した土砂で家屋が破壊された。気象庁が最大の警戒を出す中、亡くなられた方、行方不明の方が200人を超え、安否不明者もいまなお多数にのぼっている。

私たちは、あらためて亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げる。

「豪雨一過」とともに暑さや熱中症との闘いも始まったが、被災地を中心に各地で地盤が緩んでいる。むろん、台風への警戒にも万全を期さなければならないが、まずは避難されている被災者の支援に全力をあげなければならない。

国労本部は、当該の西日本本部ならびに四国本部および九州本部との連携を密にし、今回の「西日本豪雨災害」による被災者の生活・雇用における安心や安全の確保、さらに被災地の復旧・復興に向けて、組合員・家族はもとより、被害を被った多くの方々に対する激励のため、組合員を対象に全国的な義援金のカンパ活動を行うとともに必要な取り組みを展開していくことを確認した。各級機関においても、喫緊となるが、以下の通り、早急に取り組むことを行うこと。

1. 「西日本豪雨災害」緊急激励カンパについて

- (1) カンパについて、組合員一人1,000円を目標として取り組むこと。但し、各級機関に所属する組合員のうち、被災者については徴収範囲から除外する。
- (2) 集約日は8月末日までとする。
- (3) 集約されたカンパについては、西日本本部ならびに四国本部および九州本部とも協議した上で取り扱いを行うものとする。

2. 今後の取り組みと対応について

鉄道や道路の大半が寸断され、孤立状態に陥った広島県内では水や食料がほとんど届かず、給水所では水を求める人たちが長い列を作っている。広域で豪雨災害が同時多発的に発生したことが被害の全容把握を困難にしているが、まず必要なのは十分な食料品や水、生活必需品であることはいままでの間もない。さらに健康や衛生面を考えると簡易式のエアコンやトイレは欠かせないが、被災地では山陽自動車道をはじめ多くの道路がまだ通行止めになっている現状から輸送手段をめぐって深刻な事態も生まれている。

まずは被災状況の実態を把握することが求められているが、西日本本部では「西日本豪雨災害」に遭われた被災地への物資調達及び搬送などの支援体制については、当該地方本部とも調整し、搬送先等を決定することを確認している。

重要なことは必要な物資を必要な場所に届けることであるが、救援物資や被災地でのボランティア活動など具体的な支援の取り組み方法については、現時点でまだ不確定要素も大きいことから、詳細がわかり次第、追って別途指示することとする。

尚、物資購入及び搬送等に関わる諸経費およびボランティア活動の派遣については各エリア・地方本部での扱いを基本とするのであらかじめ周知されたい。

山陽本線・本郷～河内間土砂流出



これからの医療の進歩を見据え、
「生きるためのがん保険」を
新しくします。

アフラックは
がん保険
契約件数 **No.1**
平成29年度「インシュアランス」生命保険統計可

NEW/
女性特有のがんにも手厚い
生きるための
がん保険
Days 1

NEW/
あなたの保険を最新化
生きるための
がん保険
Days 1 プラス

すでにアフラックの
がん保険にご契約の皆様へ

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております)
アベニール株式会社
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

(引)受保険会社
「生きる」を創る。
Aflac
アフラック
東京第二法人営業部
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル19F
TEL.03-3344-1429 FAX.03-3344-2658
AF広告課-2017-5036 1月12日

**国労西日本本部
第32回定期大会**

開催日
2018年8月3日(金)
10時～

場 所 国労大阪会館
大会議室

「国労会館・地方労働講座」
9時～

講演：憲法改悪に対する
闘いについて(仮題)

講師：梅田 章二弁護士